

1. 調査の経緯

平成17年度に建設部街路課（現在は道路建設課）から都市計画道路沼津南一色線（昭和36年都市計画決定）の建設用地となる高尾山穂見神社とその移転先の地域に埋蔵文化財があるかどうか教育委員会（文化振興課）に問い合わせがあり、試掘調査の結果発見することができました。教育委員会は、日頃からこうした開発行為と文化財保護の調整に必要な埋蔵文化財の情報を得る目的で試掘や踏査などの分布調査を実施していますが、私有地を勝手に掘ることはできないので、工事をしようとする機会を捉えて開発者のご理解をいただきながら分布調査をしています。熊野神社境内については、19年に試掘調査を実施しました。この結果、（伝）辻畑古墳とされてきた高尾山穂見神社の高台は古墳であることが確認されました。このときは、調査範囲も狭く、一部しか試掘できなかったため、平面形が方形となる「方墳」と考えられました。前方後方墳であることを最終確認したのは、東熊堂自治会館建設に際して実施した平成20年5月の本発掘調査です。

2. 前方後方墳とは

前方後方墳の名称は、その名が示すとおり前に矩形又は台形を呈した土台があり、後ろにも方形の土台がある古墳につけられた名前です。これに対して、前方後円墳は、前に方形の土台後ろに円形の土台があります。前方部は、ここで祭祀を執り行ったと考えられています。後方部は前方部より一段高く、ここに棺を埋葬する埋葬部をもつことが一般的です。年代的には、にその発生は古く、前方後円墳との関係から考えてもそれより古くなるものが多いと考えられています。静岡県で確認されている前方後方墳は、辻畑古墳を含めても5基しかありません。午王堂山3号墳（静岡市清水区）77.6m・浅間古墳（富士市）103m・北岡大塚古墳（磐田市）49.5m・小銚子塚（磐田市）47m・新宝院山2号墳（磐田市）34.3mがあり、その年代は新宝院山2号墳と小銚子塚が4世紀前半、午王堂山と浅間は4世紀後半位と考えられています。丸ヶ谷戸（富士宮市）26.2mは、3世紀後半と考えられていますが、弥生時代以来の前方後方型周溝墓と考えられています。

真上から見た形は、右図のようになります。高尾山穂見神社の社殿が乗っていた高台は、発掘調査によって後方部であることがわかりました。

前方後方墳の発生は、主に弥生時代後期末から造られ始める前方後方形墳丘墓との関連が考えられ、古墳時代前期前半に東日本（中部・関東地方）でよく造られています。日本列島には約500基の前方後方墳が存在します。

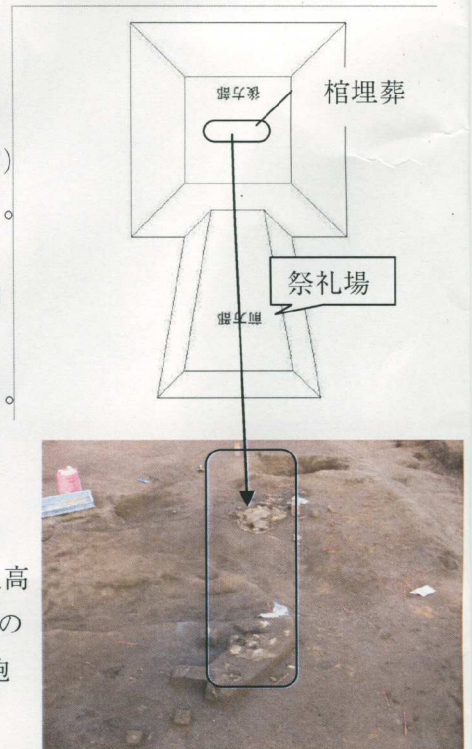
愛知県の西上免遺跡で発見された前方後方形墳丘墓は墳丘長約40mもあり、前方後方形墳丘墓から前方後方墳への成立に濃尾平野が重要な役割を果たしたと考えられています。3世紀前半の弥生時代終末期頃、東海地方では方形墓の一辺にこうした突出状の祭壇を設ける墓が流行しました。その例として愛知県の廻間墓があげられ、祖形と考えられています。

dこの墳形は、西は京都府から東は千葉県までひろがっているそうです。

3. 辻畑古墳の概要

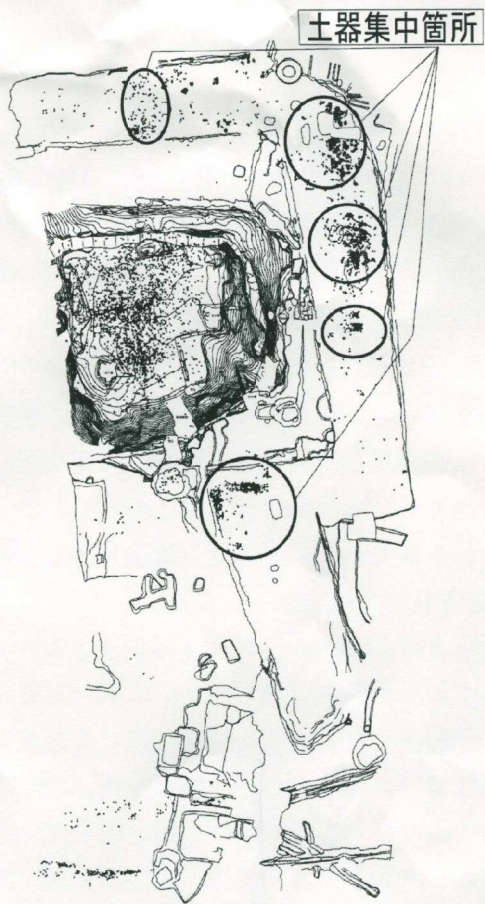
全長約62m・後方部幅推定35m・前方部最大幅推定24m・墳丘盛土高約4m・くびれ部幅9.6m、埋葬施設1箇所・埋葬構造：木棺直葬・木棺の形状：調査中・出土遺物：銅鏡1～2面、槍1点、鉄族10点以上、ヤリ鉋1点、その他錆により形状の判らない鉄製品など

出土した土器型式などから3世紀代の古墳である可能性が高まっています。

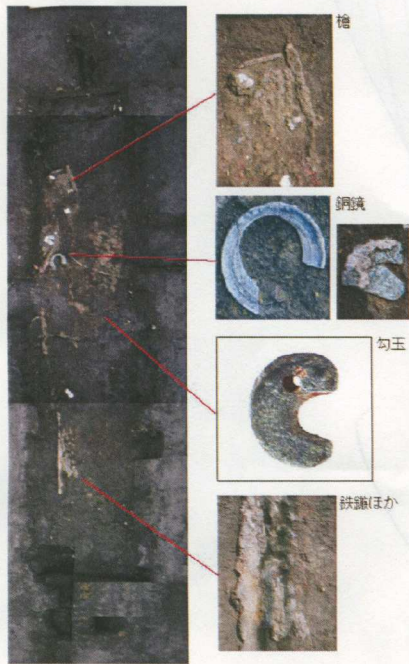




古墳地形図



遺物の分布



実年代	寺澤案			都出案			暦年代	
	時期	期	近畿編年	細分様式	期	時期		
300	弥生 中 期	I	長原式	古 中 新	第1様式	早期	300?	
200			1 2 3 4			I		前期
100		II	第II様式	古 新	第2様式	中期		100?
			1 2 3			II		
B.C. A.D.		IV	第IV様式	古 新	第3様式	前期		(52)
			1 2 3 4			IV		
100	V	第V様式	古 中 新	第5様式	後期	100		
		0 1 2 3			V		代	
200	VI	第VI様式	古 新	庄内式	終末期	200		
		1 2			VI		時	
300	古墳 前期	布留式	古 中 新	布留式	古墳 時代	(250)		
							0 1 2 3 4	
400			(須恵器)					

